



国立大学リスクマネジメント情報

2024(令和6)年12月号

<https://www.janu-s.co.jp/>

特集テーマ

頻発する大学の火災事故

このところ、大学での火災の発生が相次いで報道されています。
火災については、本誌でも何度も取り上げていますが、今一度、注意をお願いしたく報道をまとめてみました。
また、弊社が作成した火災事故防止チェックリストについても、改めて紹介いたしますので、ご活用をお願いいたします。

1. 最近の大学の火災事故

10月末から、相次いで大学での火災や爆発のニュースが報道されました。
国立大学で発生した事故について、弊社が状況をお聞きしたところ、いずれも大規模な事故ではないようですが、発見や消火の遅れ、消火活動による周辺への被害により、大規模火災事故となる可能性があります。より一層の防火対策、発生した際の初期消火等対応の備えが必要です。

<最近の大学の火災・爆発事故のニュースの内容>

月日	ニュースの内容	原因※
10.26	○大学構内の実験室で25日夜、火災が発生した。消防車など22台が出動し、周辺一帯が一時騒然とした。7階の有機合成化学実験室で、学生らが金属ナトリウムを処理する作業中に出火し、排気装置の一部や容器などが燃えた。当時、実験室には学生ら13人と助教がいたが、ケガ人はなかった。	実験
11. 25	○大学の化学バイオ研究棟の一室で火事があった。24日午後10時頃、大学の警備員から「6階から黒煙が出ている」と119番通報があり、ポンプ車など16台が出動しておよそ1時間後に鎮火、この火事によるケガ人はいなかった。出火当時、火元となった一室は施錠された状態で、室内には薬品などはなく、冷蔵庫や床の一部が焼けた。警察と消防は現場の状況から冷蔵庫の配線が火元となったとみて、詳しい原因を調べている。	電気火災
11. 29	○大学で 29 日午前 3 時半頃、爆発が起きたと119番通報があった。水やエタノールなどを扱う実験中に装置が爆発し、実験室の窓ガラスが割れ、大学院生が指に軽いケガをした。この爆発事故で、消防車両16台が出動したが炎は確認できず、放水も行わなかった。	実験
12. 2	○大学工学部で火災が発生した。2日午後3時過ぎ、職員から「1階の機械室から火が出た」と消防に通報があり、消防車11台が出動し、午後4時前にはほぼ鎮火した。警察と消防は今後、出火原因を調べる。	不明
12. 5	○大学工学部のキャンパスで「3号館から煙が上がっている」と学生から消防に通報があった。煙が出たのは2階の一室で、この部屋には当時、大学の職員が1人いた。この職員は警察に対し「電子レンジを使っていたら分電盤から煙が出た」と説明している。この火事によるケガ人はいないが、周辺には学生などが集まり、一時騒然とした。	電気火災
12. 10	○大学の共同研究館2階で実験中に火事があり、職員1人が病院に運ばれた。リン酸と黄リンを使った化学実験を行っていたところ、煙が充満した。消防からポンプ車など16台が消火にあたり、火は約40分後に消し止められた。職員が病院に運ばれたが、当時、会話ができる状態で意識はあった。警察と消防が詳しい状況を調べている。	実験
12. 10	○大学の研究施設で椅子を焼く火事があった。警備員から「建物の中から炎が見える」と消防に通報があり、火は椅子2脚などを焼き、約30分後に消し止められた。この火事によるケガ人はいない。この実験室は10年近く使われておらず、警察と消防は当時の状況や火事の原因を調べている。	不明



2. 暖房器具と学生の研究活動

消防庁の消防白書によると、春季(3月～5月)及び冬季(12月～2月)の出火件数が多くっており、総出火件数の58.7%を占めているとあり、冬季から春にかけては火災の発生が多くなります。

資料 1-1-12 四季別出火状況

年 別 季 別	令和3年				令和4年			
	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (百万円)	構成比 (%)	出火件数 (件)	構成比 (%)	損害額 (百万円)	構成比 (%)
春季(3月～5月)	9,814	27.9	24,401	23.4	10,731	29.6	27,119	26.7
夏季(6月～8月)	7,279	20.7	13,814	13.3	7,368	20.3	27,636	27.2
秋季(9月～11月)	7,301	20.7	38,919	37.3	7,625	21.0	21,441	21.1
冬季(12月～2月)	10,828	30.7	27,078	26.0	10,590	29.2	25,547	25.1
合 計	35,222	100.0	104,213	100.0	36,314	100.0	101,743	100.0

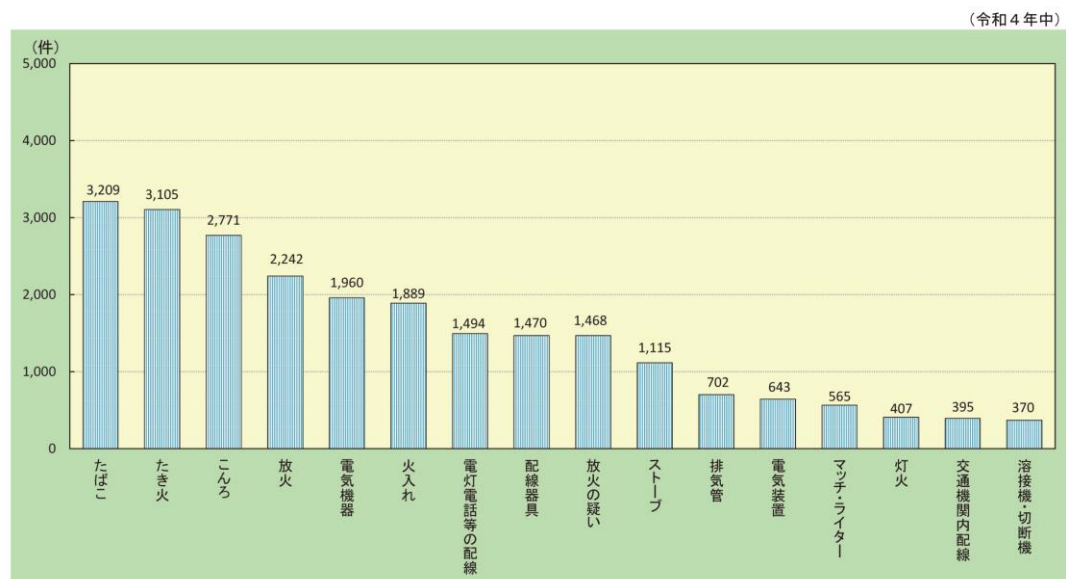
(備考) 1 「火災報告」により作成

2 冬季の1月及び2月は、当該年のものである。

3 合計欄の値が四捨五入により各値の合計と一致しない場合がある。

主な出火原因で多いのはたばこやたき火ですが、冬季に使用するストーブや、こんろ、電気機器、電気装置も主な出火原因の一つとなっています。

第 1-1-15 図 主な出火原因別の出火件数



(備考) 「火災報告」により作成

消防庁「令和5年版 消防白書」

<https://www.fdma.go.jp/publication/hakusho/r5/66966.html>

国大協保険の火災事故のデータでは、ストーブ等の暖房器具から発火した火災も発生しています。冬場に空気が乾燥する地域は、特に注意が必要です。静電気の発生により可燃性物質に引火する可能性があります。

また、最近の火災事故では、学生が深夜に実験中の時に爆発事故が発生しています。卒業や修了に向けて実験等が追い込みを迎える時期となり火災の危険が高まります。

さらに、年末年始にかけては長期に建物が不在となるため、注意が必要です。





チェックリストはエクセル様式で各項目をチェックすると別シートに簡易的な集計を行うように設定されています。

チェックリストの活用例として考えられるのは次のとおりです。実態に合わせて活用してください。

(例1) 火災防止チェックリストが作成されていない場合

⇒ 今回作成した火災防止チェックリストをそのままチェックリストとして活用し、定期的な点検を実施する

(例2) 火災防止チェックリストと同様のチェックリストを既に作成済みの場合

⇒ 既存のチェックリストと比較し、抜け漏れがないか確認し、既存のチェックリストをバージョンアップする

(例3) 研究室では、火災チェックリストで定期的な点検が実施されているが、事務室などでは点検が実施されていない場合

⇒ 今回作成した火災防止チェックリストの共通部分だけを抜き出し、事務室などでも定期的な点検を実施する

(例4) 学生への防火防災に関する教育が実施されていない場合

⇒ 火災防止チェックリストの解説書を教育資料として活用する

火災防止チェックリストのダウンロードURL

⇒ [https://www.janu-s.co.jp/assets/img/fire accident/02 checklist.xlsx](https://www.janu-s.co.jp/assets/img/fire%20accident/02%20checklist.xlsx)



2). 火災防止チェックリスト解説書の内容

火災防止チェックリスト解説書は、火災防止チェックリストの各チェック項目について、なぜその項目についてチェックする必要があるのか、チェックポイントを詳細に解説したものです。

1 火災防止チェックリストについて

- 火災防止チェックリスト※1,2,3について
本チェックリストは、主に国立大学の研究室において自主点検として火災防止の観点を重視したチェックリストとなっています。自主点検を実施する際の基本指針を提供しています。また、このチェックリストは一般的な研究室を想定して作成していますが、職員事務所などにも適用できる範囲が含まれていますので、合わせてご活用ください。
加えて、各研究室などの特色に合わせてチェック項目を追加、検討して頂くことでさらに効果的な火災防止チェックリストとなります。
※1 これまで弊社にて実施した国立大学の防災調査結果内容を参考としています。
※2 記載内容以外に確認すべき内容が存在しないことを保証するものではありません。
※3 本チェックリストは、東京消防庁の消防計画作成の補助に記載される「自主検査チェック表」の内容を模範し作成しています。
- 火災防止チェックリストと本解説書の関係

各項目の該当ページを参照

➢ 月1～年数回の点検頻度を想定した内容
➢ 一般的な研究室(理系、文系問わず)を想定し、特殊な設備等については網羅していません。
➢ チェック項目のポイントを写真や図を用いて解説※4
※4 解説が不要な点検項目は、チェックリストの内容に記載しています。

MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc. | 6

写真や図表を使用して、各チェック項目やチェックポイントを解説しており、一読することで火災防止に必要な観点や考え方を理解することができ、防火管理者以外の学生や職員が読んでもタメになる解説書となっています。

解説書の一部を次頁よりご紹介いたします。是非、解説書全頁をご覧ください。

火災防止チェックリスト解説書のダウンロードURL

⇒[https://www.janu-s.co.jp/assets/img/fire accident/03 checklist book.pdf](https://www.janu-s.co.jp/assets/img/fire%20accident/03%20checklist%20book.pdf)

1 なぜ防火対策が必要なのか？

- **テーブルタップのトラッキング現象による火災で1億円以上の被害**
テーブルタップなどの少額の周辺機器から出火した場合でも、実験室に設置されている高額実験設備に被害が出て**高額な被害額となるケース**が多くあります。
なぜ高額の被害額となるのか・・・
 - **煙による汚損で高性能な実験設備に被害**
焼損による被害のほか、高性能な実験設備は**煙による汚損だけでも使用できなくなるケース**があります。火災で発生する煙や煤は、**空調ダクトなどを伝って広範囲に拡大**することがあり、火災現場以外でも実験設備が被害を受けます。
 - **火災現場の下層階にも水濡れによる被害**
消火活動で使用する大量の消火水が、**火災現場の下層階にしみ出し**、実験設備が**水濡れにより使用できなくなるケース**があります。
- **火災・事故の発生により学生教育、研究活動、補助事業の継続が困難になります**
重要業務に支障がないよう日常における防火対策が必要です。

MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc. | 5



2 大分類：火の元管理 | 中分類：電気機器、設備

No. チェック項目

3 コンセントの管理状況

確認ポイント

古くなったテーブルタップは、更新を検討

- コンセントやテーブルタップの焦げ跡、変形、割れなどの破損が見られる箇所はないか。
 - 許容電気容量を超えてコンセントに接続されていないか。（タコ足配線）
 - 以下の消費電力の大きな電気用品 2 個以上が同一のコンセントに接続されていないか。
（電気容量の合計が1500Wを超えると出火のおそれ）
ドライヤー、アイロン、電子レンジ、オーブントースター、ジャーボット、電気ケトル、ホットプレート、IHヒーターなど
- 注）電源を取る場所が不足しているもののコンセント増設の予算化が見込めない場合、暫定対策としてブレーカー付テーブルタップを使用し、同時に1500W以上の電力を使用できないようにすること。

暫定対策：ブレーカー付テーブルタップ（例）



×タコ足配線



- テーブルタップ（延長コード）の交換目安
3～5年 ※周囲環境や使い方により差が生じます。

出典：日本配線システム工業会

2 大分類：火の元管理 | 中分類：電気機器、設備

コンセントの安全点検

- 配線器具（コンセント・スイッチ）の交換目安
10年 ※周囲環境や使い方により差が生じます。

Point 焦げたにおいがする

内部で異常が発生している可能性があります。



Point 表面が焦げたり、溶けている

電源プラグやコンセントが損傷しています。



Point 表面が焦げている

長期間差し込まれたままの電源プラグやアダプタでは、ホコリがたまって、トラッキングを起こしている可能性があります。



Point 表面が割れている

感電する恐れがあります。



出典：日本配線システム工業会



2 大分類：火の元管理 | 中分類：電気機器、設備

コンセントの安全点検

Point 電源プラグの抜き差しがゆるい

コンセントが損傷しています。接続が不十分になり、感電や火災につながります。

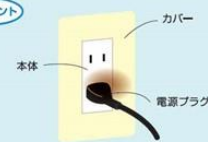
コンセント



Point 焦げたにおいがする

内部で異常が発生している可能性があります。

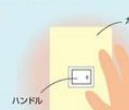
コンセント



Point 表面が熱い

内部で異常が発生している恐れがあります。

スイッチ



正常な状態でも調光用のスイッチなどでは、表面が温かくなるものがあります。

Point 操作が異常に軽かったり、重かったりする

スイッチが損傷している恐れがあります。

スイッチ



出典：日本配線システム工業会

MS&AD

MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc. | 18

2 大分類：火の元管理 | 中分類：電気機器、設備

No.	チェック項目
-----	--------

4	コンセントのトラッキング防止対策
---	------------------

確認ポイント

- コンセントにプラグが確実に差し込まれているか。（半差しとなっていないか。）
- コンセントやテーブルタップに塵埃が堆積していないか。また、定期的に清掃されているか。
- 清掃が困難な場所に設置されたコンセントやテーブルタップはないか。



×コンセントの半差し状態



×コンセントの抜けかけ状態



MS&AD

MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc. | 19

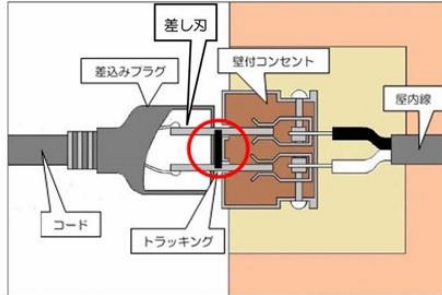


2 大分類：火の元管理 | 中分類：電気機器、設備

トラッキング現象による火災

什器などで隠れている箇所は特に注意

- ① コンセントに差し込んだプラグの差し刃間に付着した埃などが湿気を帯びて微小なスパークを繰り返す。
- ② 堆積物が炭化し、差し刃間に電気回路が形成されショートする。
- ③ ショートにより過熱、出火に至る。



火災防止対策

- 差し込みプラグは**使用時以外はコンセントを抜く**
- 長時間差したままのプラグなどは、**定期的に点検し、乾いた布などで清掃**
- **発熱などの異常**がある場合は交換する

出典：東京消防庁

MS&AD

MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc. | 20

2 大分類：管理事項 | 中分類：防火戸、排煙窓

No. チェック項目

1 防火戸または防火シャッターの管理状況

確認ポイント

防火区画が形成されないと煙損による被害が拡大

- 防火戸や防火シャッターに破損やゆがみなどが見られる箇所はないか。
- 防火戸の動作範囲や防火シャッターの降下位置に閉鎖障害となるもの（カーペット、電源ケーブル、備品・什器など）が置かれていないか。
- 防火シャッターの手動閉鎖装置の周囲に什器・備品などが置かれ操作できない状況はないか。



×防火戸の動作範囲内に物品放置

防火シャッターの手動閉鎖装置の例



操作できる状態であることが重要

MS&AD

MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc. | 26



2 大分類：管理事項 | 中分類：防火戸、排煙窓

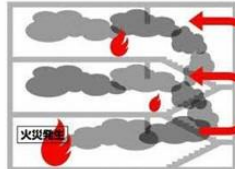
防火戸について

- 防火戸には、常時閉鎖式と随時閉鎖式の2種類の構造があります。
常時閉鎖式防火戸：常に閉鎖されている防火戸
随時閉鎖式防火戸：基本的に開放状態で、煙や炎を検知すると電気信号により閉鎖される防火戸
- 防火戸の役割は以下のとおりです。

【防火戸の役割】



防火戸が正しく使用されていると…
炎、煙の拡大を防ぎます



防火戸が正しく使用されていないと…
炎、煙が建物全体に



防火戸が機能した事例



出典：横浜市

防火戸の機能が発揮されると被害範囲が局限されます。

防火戸の機能が発揮されないと、火災の被害（特に煙損）は広範囲に急速に拡大

MS&AD

MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc. | 28

2024. 11 月

大学リスクマネジメント News PickUp

<Web から大学（国立以外含む）関連ニュースを検索>

<大学の管理・経営>

11. 7 ○学校法人理事長らが「腐ったミカン」などと職員に暴言を吐き、退職を迫ったのは違法だとして職員らが法人側を訴えていた裁判で和解が成立。職員3人は、2016年研修先で講師から連日暴言を浴びせられた上、退職を強要されたことでうつ病を発症したとして、約3600万円の賠償を求める訴えを起こしていた。職員らは、法人側が解決金約9200万円を支払い、謝罪することなどを条件に和解が成立した。
11. 11 ○大学の教授ら2人が学長から不当な退職勧奨を受けたなどとして学長らを相手取り、慰謝料など各300万円の損害賠償を求めて地裁に提訴していたことがわかった。教授は2021年3月、学長から学長室に呼ばれ「あなたを採用したのは私の間違い。一生の不覚。辞めてほしいの」などと具体的な根拠を示されないまま繰り返し退職勧奨を受けたと主張している。
11. 20 ○大学と△大学の教職員らで結成する労働組合は12月、賃金のベースアップ（ベア）の要求が実現しない場合、授業中にストライキに踏み切る。非常勤講師は定期昇給がなく、15%のベアを求めている。ベアを求めた大学でのストは異例という。労働組合は18日にスト通告書をそれぞれの大学に提出した。○大学では、非常勤講師のベアは少なくとも過去十数年実施されていない。△大学でも2006年以降、非常勤講師のベアはない。両労組は、専任教員を含む全ての職員で10%以上、非常勤講師では15%のベアを要求している。受け入れられない場合、○大学では非常勤講師2人が12月11、12日に授業の30分間ストを実施する。△大学でも非常勤講師3人が12月9日に授業の最後15分間にストを行う。



<事件・事故>

11. 1 大学生暴行死事件の容疑者が通う〇大学に爆破予告のメールが届き、11月1日、大学は終日キャンパスを閉鎖し、授業の休講や部活動中止などの措置を取った。これまでに大学構内で不審物は見つかっていない。
11. 3 11月2日午後10時ごろ、〇大学山スキー部が管理する築90年超の木造2階建ての山小屋の利用者から「屋根から出火した」と119番通報があった。出火当時、小屋には大学スキー部員や卒業生23人が宿泊していた。天井裏付近から火が出ていることに気づき、備え付けの消火器を使用したものの消火できなかった。いずれも自力で下山し、ケガ人はいなかった。ヘリを含めて10隊が出動し消火活動にあたり、3日午後2時40分ごろに鎮火した。出火の原因はまだ明らかになっていない。
11. 6 6日午前9時すぎ、〇高専から消防に「炎と煙が出ている」と通報があった。火は約30分後に消し止められたが、校舎のとなりに位置する教員の研究室などがある旧総合情報センターの一部が焼けた。この火事で1人が病院に運ばれたが、ケガの程度はわかっていない。火事が起きた時は授業中で、高専は授業を中断して学生をグラウンドに一時避難させた。
11. 15 〇大学の元教職員(既に死亡)の自宅から放射性物質の入った金属缶が、11月8日に見つかったことがわかった。遺族から大学に連絡があり、缶の表面や保管場所からは放射性物質の炭素14やトリチウムが検出された。缶は既に大学の放射線管理区域に移されている。この家には現在人が住んでいないことや放射線のレベルなどから、人体や周辺への影響はないという。
11. 20 〇大学病院の医師1人と看護師3人が右手の骨折の手術を受けた患者に鎮静剤などを投与した後、経過観察を怠り低酸素脳症にさせたとして業務上過失傷害の疑いで書類送検。大学は2年前、医療事故を公表し、鎮静剤などの投与量が多かったにもかかわらず経過観察が不十分で、心拍数を測る機器の接続を怠り、心肺停止状態になっていることに気づくのが遅れたなどと説明していた。患者は2023年7月に亡くなった。
11. 22 〇大学のキャンパスに侵入して学生のパソコンなどを盗んだ疑いで男が逮捕。同大では5月以降、同様の被害が10件以上相次いでいる。男の自宅からは20台ほどのパソコンが押収されていて、警視庁が関連を調べている。
11. 25 〇大学の化学バイオ研究棟の一室で火事があった。24日午後10時頃、大学の警備員から「6階から黒煙が出ている」と119番通報があり、ポンプ車など16台が出動しておよそ1時間後に鎮火、この火事によるケガ人はいなかった。出火当時、火元となった一室は施設された状態で、室内には薬品などはなく、冷蔵庫や床の一部が焼けた。警察と消防は現場の状況から冷蔵庫の配線が火元となったとみて、詳しい原因を調べている。
11. 27 〇大学敷地内で、樹木の伐採作業をしていた男性が倒木(長さ20メートル、直径約1.6メートル)に巻き込まれ上半身を強く打ち、搬送先の病院で死亡が確認された。男性はシルバー人材センターから派遣され、チェーンソーを使って、敷地内の道路に倒れかかっていた樹木の伐採をしていた。
11. 29 〇大学の超高圧電子顕微鏡施設で爆発が起きたと119番通報があった。水やエタノールなどを扱う実験中に装置が爆発し、実験室の窓ガラスが割れ、大学院生が指に軽いケガをした。この爆発事故で、消防車両16台が出動したが炎は確認できず、放水も行わなかった。

<入試等関連>

11. 6 〇大学は、2023年11月に実施した推薦入試で出題ミスがあったと発表。ミスは小論文(英文)の問題で、英単語の注釈が誤訳されたまま出題された。今年10月下旬、外部から指摘を受けて判明。解答に影響する部分について受験者全員を正解とし、採点し直した結果、追加合格者が出たが大学は「個人が特定される」として人数を公表していない。大学は追加合格者らに謝罪し、今後の対応を協議している。
11. 15 〇大学は、総合型選抜入試(英語型)の2次試験で運営にミスがあったと発表。2次試験では、受験生が事前に提出したエッセーを用いた英語によるプレゼンテーションが行われる予定だったが、面接官への周知が不十分で質疑応答しか行われなかった。受験生の在学高校からの指摘でわかり、2次試験を全員満点とする措置をとり、受験した15人全員を合格とした。
11. 19 大学入学共通テストに新たに導入された「情報」の教科について、大学教授や予備校講師らは「情報」が高校で必修化されて3年目であり、教科として確立されていないため、共通テストに導入するのは早すぎるとして文部科学省に反対署名を提出した。文科省の調査では、必修化された2022年度当初は担当教員のおよそ6分の1が情報の免許を持っていなかった。今年の受験生が履修した時点では、全国規模での教育体制が整っていなかったと指摘している。また、一部の国公立大学は「情報」の点数を配点しないと公表していて、共通テストの教科としての妥当性に疑問があるとしている。
11. 19 〇大学が2023年11月に実施した入試(学校推薦型選抜と社会人特別選抜で共通する総合問題)の出題ミスの影響で5人が不合格となった問題で、県は、問題作成や採点に関する責任者だった当時の副学長(現学長)を減給2カ月(10分の1)の懲戒処分にしたと発表。問題の確認や作成に携わった教員5人は訓告や厳重注意とした。ミスで不合格となった5人は一般入試で合格したり、同大への入学を希望したりした人もおり、他大学の受験費用、入学に伴う引っ越し費用など賠償金計約581万円を支払い済み。
11. 24 〇大学の入学試験で出題ミスがあったことがわかった。受験生から「数学Ⅰ」の範囲ではない「確率」の問題があると指摘があり、発覚した。大学はこの問題を今回の入試問題から除外、受験者全員に該当問題の点数を加えた上で合否判定を行い、順位に変動はない。
11. 26 〇大学は、推薦入試で出題ミスがあったと発表。入試後の外部検証で、選択式で1つの答えを選ぶ問題で2つの正解が判明した。以前までは遷移要素は「3～11族」と習っていたものが学習指導要領の改訂で、今の高校3年生が入学した2022年度からは「3～12族」と改訂され、すべての受験生に配慮し、どちらも正解とした。合否判定前に判明したため、合格判定が変わることはない。
11. 28 〇大学が2023年度に行った推薦入試で出題ミスが発覚。ミスがあったのは小論文問題の課題文で、英単語の「data」と表示すべきところを「date」と表示されていた。外部からの指摘で発覚した。単語の誤りがあったことで、解答に影響のあった設問に関しては全員を満点とし、改めて採点をやり直したが合否の判定には影響はなかった。同大の推薦入試をめぐるのは、同じ小論文の課題文で英単語の注釈の和訳のミスが発覚している。



<情報セキュリティ>

11. 1 ○大学を今年3月に退職した元教授が在職中に知り得たとみられる○大学病院の患者の個人情報を目的外利用し、開いたクリニックの案内文を郵送していたことがわかった。大学側は事実関係の究明のため、外部の弁護士を交えた調査会を設けた。大学病院によると、元教授は5月にクリニックの案内文と体調を尋ねるアンケートを同封して700人に送り、190人から回答を得たと報告。病院側は、個人情報などの返却を求めたが、元教授は「全て破棄した」と説明した。封書が届いた患者から相談を受けた複数の開業医が指摘し、発覚した。大学病院は、元教授が個人情報をクリニックの患者獲得に利用した疑いがあるとみて、国の個人情報保護委員会などに報告した。
11. 6 ○大学は、9月に職員が利用している業務用パソコンがランサムウェア感染し、共有ドライブから業務データが不正にダウンロード(窃取)され、大学保有の学生、教職員、学外者の氏名・メールアドレス・学生番号・成績情報などの個人情報の漏えいが発生したと報告。大学は、さらなる被害拡大を防止するため、利用中の対象機器をネットワークから隔離し、被害職員のアカウント停止及びパスワード強制変更を実施。被害職員アカウントによる学内各種システムの不正利用は確認されていない。情報漏えいの件数はシステム構築・運用に関わる外部企業(システム関連企業)関係者で41社119人、学部学生3490人、教職員3476人分。
11. 18 ○大学は、10月27日、研究室のサーバーが不正にアクセスを受けて教員のアカウントが何者かに乗っ取られ、不正にログインされ、研究室に所属する在学生や卒業生159人の氏名、住所、電話番号などが流出した可能性があると発表。これまでの調べでは外部に個人情報が流出したり、第三者による情報の不正利用は確認できていない。大学は「不正アクセスを招いた原因は概ね明らかになっているが、セキュリティ上の理由で公表できない」としている。
11. 19 ○大学は、学生1名のメールアドレスに不正アクセスがあり、大学のメールシステムから多量の迷惑メールの送信が行われたと発表。迷惑メールが送信されたのは、10月1日午後7時頃で19839アドレス宛に3433件のメールが送信された。大学では事象の認知後に、当該メールアドレスを利用停止している。

<ハラスメント>

11. 14 ○大学の元教授が2022年11月から2カ月間にわたり、学生1人に対して早朝や深夜にSNSで指導する内容のメッセージを繰り返し送り付ける「アカハラ行為」をしたとして2023年10月、元教授が停職100日の懲戒処分と准教授への降格処分を受けていたことがわかった。学生からの申し出を受け、大学が調査した結果、元教授の行為は指導者の立場を利用した過度な指導としてアカデミックハラスメントに認定。大学はこれまで事案を公表しなかった理由について「被害学生に公表の許可を得るのに時間がかかった」と説明。
11. 22 ○大学は、教授が2022年から2023年にかけて、自分の指導する学生に対し、身体的な接触や性的発言を行ったほか、学会の発表の機会を妨げる行為などセクハラとアカハラを行ったとして停職1カ月の懲戒処分としたと発表。学生が大学側に相談し、その後の調査で発覚した。
11. 27 ○大学は、助教が2022年10月～2023年12月、指導していた学生に対し、学内で手を握ったり肩を抱いたりしたほか、身体や容姿についての言及や好意を示すメールを送るなどの行為を複数回行うセクハラ行為をしたとして諭旨解雇処分にしたと発表。学生が今年2月、大学に被害を申し立てて発覚した。

<学生・教職員の不祥事>

11. 1 11月1日から施行された改正道路交通法で、警察は○大学の学生2人を自転車の酒気帯び運転違反で検挙したと発表。1人は転倒しケガをしたところに警察が駆け付け基準値を超えるアルコールが検知、1人は「ながらスマホ」で自転車を運転していた学生をパトロール中の警察官が発見し、声をかけて検査したところ酒気帯び状態だった。
11. 8 ○大学病院の放射線技師が6月、病院の女性更衣室に入り小型カメラを設置して着替えの様子を盗撮したとして出勤停止6カ月の懲戒処分。女性職員がACアダプターに似せたカメラが天井のコンセントに差さっているのを見つけ、カメラには女性10数人の着替えの映像が残っていた。放射線技師は退職届を提出している。
11. 11 ○大学の学生が知人と揉めていたところ、仲裁に入った男性の頸に腕を使い、プロレス技の「リアット」のような形で暴行を加えたとして、通行人からの通報で駆けつけた警察官に現行犯逮捕。暴行を受けた男性は通りがかりで学生とは面識はなく、学生は事件当時、酒に酔っていた。
11. 13 ○大学の元教授(2024年3月まで)が2023年1月、自身が運営するウェブサイトで10歳前後の女兒のわいせつ動画を公開し、不特定多数の人が見られるようにしたとして児童買春・児童ポルノ禁止法違反(公然陳列)容疑などで逮捕。画像や動画の販売で「2000万円くらい売り上げた」と供述している。
11. 14 ○大学病院の医師が女性独身寮の女性が住む一室に無施錠の窓から侵入し、室内から現金4万円を盗んだとして住居侵入と窃盗の疑いで再逮捕。寮の別の部屋に侵入しようとしたところを住人の女性が発見し、通報し、10月に住居侵入未遂容疑で逮捕されていた。
11. 15 ○大学の学生が自宅近くの町道で普通乗用車を運転中、対抗方向の道路を歩いていた女性をはね、その場から逃げた疑いで逮捕。はねられた女性は、頭の骨を折る重傷。
11. 20 ○大学の学生が、別の大学の駐輪場でバイクにかけてあったヘルメットなど約2万5000円相当を盗んだとして逮捕。近隣の大学では去年4月以降、ヘルメットなどが盗まれる事件が13件連続していて、学生の関係先からは盗まれたとみられるヘルメット6個が見つかったことから警察が余罪を追及している。



11. 20 ○大学の教授が9月、自宅で女性に対しマッサージと称してわいせつな行為をしたうえ、額にキスをしたとして不同意わいせつと暴行の疑いで逮捕。
11. 22 ○大学の学生が元交際相手の女性の携帯電話にSNSのメッセージ機能で「更衣室を盗撮しろ」などと送信して脅迫し、女性に画像を撮影させたとして強要の疑いで逮捕。
11. 23 ○大学の教員が「法律がなければお前のことは殺してやりたい」など書いた手紙を置いて女性を脅したとして脅迫の疑いで逮捕。2人の間には面識があり、警察はトラブルの原因を調べるとともに、教員に余罪があるとみて捜査している。
11. 23 ○大学の学生が酒を飲んで乗用車を運転したとして酒気帯び運転の疑いで逮捕。警察が取り締まりをしていたところ、学生が運転する乗用車に停止を求めると学生から酒のにおいがしたため、呼気検査をしたところ基準値を超えるアルコールが検知され、その場で逮捕。
11. 25 ○大学の学生が駅改札内の多目的トイレに面識のない女性を連れ込み、性的暴行を加えたうえ、現金を盗んだとして不同意性交などの疑いで逮捕。女性は飲酒したあと電車内で寝込んでいて、同じ電車に乗っていた学生が女性を助けるふりをして電車から降ろし、その後、トイレに連れ込んで犯行に及んだ。
11. 27 ○大学付属病院の医師が東京駅前の上りエスカレーターで、前にいた女性のスカート内にスマートフォンを差し入れて盗撮したとして性的姿態撮影処罰法違反(撮影)容疑で書類送検。医師は出張で訪れており、スマホには複数の女性の後ろ姿の画像などが残っていた。大学は、医師を停職3カ月の懲戒処分とした。
11. 28 ○大学の学生が9月、飛行機の中で女性の衣服に体液をかけたとして不同意わいせつの疑いで逮捕。被害女性は機内で突然冷たさを感じ、飛行機を降りた際に空港内にある警察署に被害を申告。警察は、体液の解析や搭乗者名簿、防犯カメラの映像などから学生を割り出し、事件から約2カ月後に逮捕した。
11. 29 ○大学の剣道部員に顔を殴るなどの暴行を加え、転倒させて死なせたとして傷害致死の罪に問われた同じ剣道部員だった被告に、地裁は「親友の命を奪ったことに反省や謝罪の意思を強く示している」などとして懲役3年、執行猶予4年の有罪判決を言い渡した。
11. 29 ○大学附属医療センターは、看護師が9月、入院患者の財布から5万円を盗んだとして懲戒解雇処分にしたと発表。入院中の患者が財布から現金がなくなっていることに気づき、病院が病室に設置していたカメラを確認したところ、看護師が患者の財布から現金を抜き取る姿が映っていた。

<不正行為>

11. 15 ○大学は、准教授が責任著者となり2023年4月に発表された論文について、准教授による特定不正行為(捏造)があったと発表。異なる実験の結果を示すはずの画像に同じ画像が使われているとの指摘が2023年7月に外部のウェブサイトがあり、大学が外部有識者を含む調査委員会を立ち上げて研究不正にあたるかどうか調べていた。その結果、准教授の実験ノートには実験の1次記録が乏しく、画像の分類や保存もずさんで、どの画像がどの実験の結果かを把握できていないものもあった。調査委員会は、悪意のない過失の可能性を否定できないとしつつ、疑いを覆すデータが存在しないとして捏造だと結論づけた。大学は今後、処分を検討する。

海外三二情報

※ WEB 上の海外ニュースから海外の大学の動向をピックアップ

<仏:フランス大学協会が政府の高等教育予算案に対して抗議>

フランス大学協会 France Universités は、政府の 2025 年度の高等教育予算案が大学の年金負担を増加させるとともに、予算額は若干増えるものの近年のインフレに見合うものではなく、特に渡し切りの交付金が減ったために光熱費や給与などには使えないなどとして抗議しています。また、政府が方針を変えないなら、教職員の雇用の確保が困難になり、キャンパスの閉鎖等を余儀なくされ、学生への教育提供の責任が果たせなくなると窮状を訴え、こうした事態が生じれば政府の責任であると強い調子で非難しています。

同協会は 11/21 に教育研究大臣に面会して怒りと深刻な財政的困難を直接訴え、翌日には約 30 名の学長が教育研究省の建物前で示威行動を行いました。そして、12/3 を「危機にある大学」の日と宣言して、約 120 の会員大学に対して抗議行動を呼びかけ、多くの大学が同日の授業を休講にして教職員や学生に抗議への参加を促すなどしました。

<https://www.timeshighereducation.com/news/french-universities-join-day-mobilisation-against-budget>
<https://franceuniversites.fr/en/actualite/85545/>



<インド:国としての包括的ジャーナル購読契約を締結>

インド政府教育省は2019年以来、国際的な学術雑誌出版社との間で、国としての包括的ジャーナル購読契約 One Nation One Subscription(ONOS)の締結交渉を続けてきましたが、このたび妥結に至ったことを公表しました。

契約は2025年1月から発効し、エルゼビア、スプリンガー、ネイチャーなどの30の出版社が発行する約1万3千の学術雑誌について、国立・州立の6300以上の高等教育機関の約1800万人の学生・教職員がアクセスできるようになります。購読料は2025-2027年の3年間で約7億2千万米ドルです。

これについてはモディ首相がインドの学術のゲームチェンジャーとコメントしていることをはじめ、多くの関係者が歓迎しています。しかし、世界的にオープン・アクセスへの移行が進んでいる中で伝統的な購読契約に多額の投資をすることには疑問の声もあります。また、欧米の出版社への依存が続くことや出版社への著作権譲渡によりAI時代における研究者の権利が十分に保護されないことに対する懸念も指摘されています。

<https://www.timeshighereducation.com/news/india-journal-subscription-deal-comes-against-open-access-goal>

<https://www.universityworldnews.com/post.php?story=20241128170122459>

<https://www.thehindu.com/sci-tech/science/indias-one-nation-one-subscription-plan-explained/article68938128.ece>

<ドイツ:大学団体と経済団体が共同して留学生受入れ拡大策を提言>

ドイツの大学協会 HRK、経営者協会 BDA、産業連合 BDI は、少子化の中で経済競争力を維持するためには海外からの留学生受入れを拡大し、卒業後は国内で就職・定着する魅力的な環境の整備が不可欠だとして、政府・大学・企業が今後進めるべき取組みを共同で提言しました。

特にビザの手続きについては、留学ビザのデジタル申請の拡大や卒業後の就業ビザ取得に要する期間の短縮などの改善を政府に要望しています。また、大学と企業が一層緊密に協力して留学中にキャリア・アドバイスをし、卒業前後の就業訓練プログラムを拡大するなど留学から就職への円滑な移行を支援すべきだと指摘しています。さらに、一定レベルのドイツ語の習得は必要としつつも、多言語の学修環境の強化が不可欠としています。そして、大学が留学生に対する高水準のサポートを継続するためには、安定的な財源が必要であり、住居確保の必要性も強調しています。

ドイツ学術交流会 DAAD の調査によれば、ドイツの大学の留学生は2023/24年の38万人から2024/25年には40万5千人に増え過去最高を記録しました。一方、留学生受入れの阻害要因を大学に聞いたところ、83%が入管政策とビザ手続、75%が低廉な住居の不足、69%が学修・生活コストと答えています。

<https://www.timeshighereducation.com/news/speed-international-student-visas-german-rectors-urge>

<https://thepienews.com/germany-forecasts-400k-international-students-in-2024-25/>

<大学マネジメントに役に立つ！>

情報誌合冊版 国立大学リスクマネジメント情報 2014.12-2021.12



<目次>

- I. ニュースから見た大学のリスク
- II. 国立大学と損害保険
- III. 国立大学リスクマネジメント情報

一冊 2,000円(消費税込) 送料別

弊社 HP からお求めください。<https://www.janu-s.co.jp/books.html>

配信について

本誌は、各国立大学・大学共同利用機関の国大協保険ご担当者、国大協連絡登録先、ご登録いただいた方にメールで配信させていただきます。 (無料) 配信登録、解除は弊社ホームページからお願いします。⇒ <https://www.janu-s.co.jp/>

情報提供のお願い

各大学等でのリスクマネジメントに関する取組み、事故・事件への対応のご経験、ご感想、ご要望等をお寄せください。
⇒ info@janu-s.co.jp

バックナンバー

- 24. 11月 大学でのハラスメント
 - 24. 10月 財産系保険の補償対象財産
 - 24. 9月 事故防止のためのお役立ち情報
 - 24. 8月 火災防止チェックリスト
 - 24. 7月 夏の事故と保険
 - 24. 6月 サイバー攻撃対応報告書から学ぶ
 - 24. 5月 大学事故に関する判例紹介
 - (2) フィールドワーク中の事故に関する判例—
- ※弊社ホームページからダウンロードできます。

発行 有限会社 国大協サービス

東京都千代田区神田神保町一丁目4番地

協力 三井住友海上火災保険株式会社